

モンゴル相撲「ブフ」の二大主流比較（2004年6月）

種類	モンゴル国のブフ	内モンゴルのブフ
衣装	帽子、ゾドグ（チョッキ）、ショーダグ（パンツ）、ゴタル（ブーツ）	ゾドグ（牛の皮で作った半袖のチョッキ、縁に銅製の鉾をはめ込む）、バンジル（だぶだぶのズボン）、トーホー（バンジルの上に履く後ろが開いたズボン）、ゴタル（ブーツ）
ルール	肘、膝、頭、背中などのいずれかが地面につけば負け。平手を着くだけでは負けにならない。土俵、体重級別はない、近年時間制限が設けられている。足取り可。フリー・スタイル・レスリングに近い。	足の裏以外の部位が地面につけば負け。下半身への攻撃は禁止。土俵、体重級別はない、近年時間制限が設けられている。足を取ることはできない。つまり、感覚的にはグレコローマン・スタイルに近い。
称号	国家ナーダムの512名のトーナメントで、16位以内はナチン（隼）、8位以内はハルツガ（大鷹）、4位以内はザーン（象）、準優勝はガルディ（ガルダー）、優勝はアルスラン（獅子）、二回優勝はアヴァラガ（巨人）の称号が授与される。アヴァラガが優勝し続けるとさらに飾り称号が与えられる。	称号制度はない。優勝な成績（128名の大会で3回優勝など）を上げれば、ジャンガーというさまざまな色をつけた首飾りをつける資格が与えられる。ジャンガーは引退する力士から受け継ぐか、行政機関によって授与される。2004年から、ジャンガーに対し、一般、銅、銀、金、アヴァラガという四つのランキングをつける規定が出されている。これはそのまま力士の地位でもある。
所作	鷹の舞で有名だが、胸はライオンを、両手は鷹の羽ばたきをイメージする。	獅子（ライオン）の跳躍、種ラクダの走りなど。
行司（審判）	一人の力士にそれぞれ行司役のザソール（介添人）がつく。取組み中に自分側の力士にアドバイスを送ることができる。セコンドの近い存在である。	一人の行司（審判）が数組の取組みを審判する。最近は一組に一人の行司がつくようになっている。ザソールのようにアドバイスを送ることはできない。
技	600種類とも言われている。足技、投げ技、手と足を組み合わせた技など実に多彩。	400種類以上ある。足技、投げ技などが中心。足を取ることができないため、手で足にかける技は存在しない。
大会	国家ナーダム（7.11-12）、お正月大会、ブフ・リーグなど定期大会やリーグ戦がある	定期大会はない。近年賞金制を導入し、定期的に国際大会も開催している。2004年7月末に「ギネス記録への挑戦2048名大会」を開催。
相撲との関係	大相撲の横綱朝青龍をはじめ関取7名を含む37名が活躍中。	三段目に蒼国来（荒汐部屋）、白（九重）など二人が角界入りしている。

同表はバー・ボルドー作成。引用の場合は作成者の許可は特に必要ではないが、出典を明記すること。